

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23404023

研究課題名(和文)近代都市文化遺産としての「日本租界」の再評価に関する実地調査

研究課題名(英文)Site Survey about Reappraisal of Japanese Settlement as Modern City Cultural Heritage

研究代表者

趙世晨(Shichen, Zhao)

九州大学・人間・環境学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：80304848

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,600,000円、(間接経費) 2,880,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまでの調査実績を踏まえながら、かつて中国に存在した5つの「日本租界」を対象に当時外務省の外交記録等の史料を解読した上で、租界設立同時の情報を把握し、現地の研究協力者と共同で総合調査を実施して、日本租界の都市空間の構成及びその変容を明らかにし、そして市街地の構成、配置、建築物等を実測調査し、日本租界に関する空間情報のデータベースを作成する共に、3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)による「日本租界」の再現を行った。今後、日中両国における近代都市史を理論的に分析するための資料・情報を提供し、都市文化遺産としての「日本租界」の再評価につながる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the feature of urban space of Japanese concessions in China. Main methods of this study are diplomatic historical materials and field investigation. We clarified development and situation of present Japanese concessions. Some buildings remain with the street as the axis of the city in Tianjin, and the street network has been hardly changed in Hankou though many of buildings have been renewed. And we did the measurement survey of the composition in city area, arrangement, the building, etc., and reproduced the Japanese settlement by three-dimensional computer graphics (3DCG).

研究分野：工学

科研費の分科・細目：都市計画・建築計画

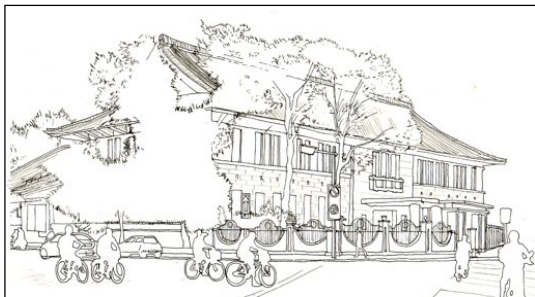
キーワード：日本租界 3DCG 空間構成 都市形成

## 1. 研究開始当初の背景

かつて東アジアの諸都市には数多くの日本人居留地が存在した。この居留地には、土地の租借方法によって「租借地」と「租界」の2種類がある。両者の大きな違いは土地租借期限の有無、軍事利用可能か、規模の大きさ、の3つである。租借地は租借期限が設けられており、軍事利用も可能で、規模が大きい。これまで租借地に関する研究が数多く発表されており、租借地がわが国の都市計画上、最も早い時期の近代的な都市づくりの1つである(戸沼、内藤 2004)と同時に、その存在がアジア諸国の近代都市の形成に大きな役割を果たしたと評価されている。しかしながら、1900年代初めに設置された日本租界は、中国と朝鮮にしか存在しておらず、規模も小さく(概ね数百ha)、これまでの都市研究では、ほとんど取り上げられていなかった。

一方、租界は自国による行政運営権が獲得できる上、土地の租借期限が設けられていないため、長期的な視点に立って居留民のニーズにあった都市づくりが出来た。日本租界も例外なく、日本人の建築家や都市計画家によって、近代の設計技術と計画理念に基づいて造られたのである。例えば、天津日本租界の開設にあたって、建築家真水英夫氏が建築顧問をつとめ、日本領事館直属の専管居留地事務所が計画を作成し、東京建物が土地及び家屋の造成を行った。つまり、日本租界は、わが国における近代都市形成史を分析・評価するための貴重な素材である。

私達は過去数年間、日本租界街路網の現地調査を実施してきた。その際、日本租界には歴史的建築物が数多く残されていることを確認した。重要文化財として指定されているケースも多いが、しかしながら、近年一部の地区においては、交通の混雑や家屋の老朽化が進んでおり、近い将来に都市再開発の波のみ込まれ、租界の一部が取り壊されるのではないかという危惧が本研究課題を構想するに至った。



天津日本租界に唯一残存の帝冠式建築

## 2. 研究の目的

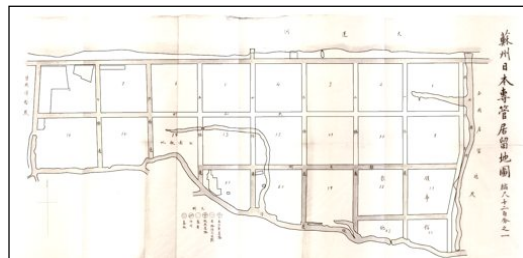
本研究は、これまでの調査実績を踏まえながら、かつて中国に存在した5つの「日本租界」を対象に当時外務省の外交記録等の史料を解読した上で、租界設立同時の情報を把握

し、現地の研究協力者と共同で総合調査を実施して、日本租界の都市空間の構成及びその変容を明らかにすること、そして市街地の構成、配置、建築物等を実測調査し、日本租界に関する空間情報のデータベースを作成する共に、3次元コンピュータグラフィックス(3DCG)による「日本租界」の再現を行うことによって、今後、日中両国における近代都市史を理論的に分析するための資料・情報を提供し、都市文化遺産としての「日本租界」の再評価を行うことを目的とする。具体的には、以下の3つのサブテーマに基づいて研究調査を進める。

I. 「日本租界」設立の歴史的背景のレビューとその都市変遷の体系化：当時の外交資料を解読し、現地調査や文献調査等で租界の歴史的変遷と時代背景から各租界の都市変遷の体系化する。

II. 3次元コンピュータグラフィックスによる日本租界の再現：これまでの調査で得られた都市空間構成のデータをベースに、租界の建物等を実測し、鳥瞰とアイレベルの双方をカバーできる3DCGを作成して、租界都市空間構成特徴の分析及び評価を行う。

III. 文字情報・空間情報・画像情報を一体化したデータベースの作成：日本租界に関する文字情報、都市と建築の空間情報、3DCGによる画像情報を一体化したデータベースを構築し、日本租界に関する広範的信息を整備する。



蘇州日本租界設立当時の街路構成  
(所蔵:外務省外交資料館)

## 3. 研究の方法

(1) 総合調査(関連資料収集、街区建構成、残存建物の調査)

旅行経路は、費用の面を配慮して、福岡に最も近い上海を経由した経路を選択した。中国国内は、列車の移動である。まず福岡→上海、上海→杭州(日本租界 1897年~1943年、振環橋付近)、杭州→蘇州(日本租界 1897年~1943年、盤門外相王廟対岸)、蘇州→漢口(日本租界 1898年~1943年、漢口支那街付近、独逸租界の隣)、漢口→重慶(日本租界 1901年~1937年、王家沱の長江沿岸付近)、重慶→天津(日本租界 1898年~1943年、旧城と仏租界の間、海河付近)、最後は、天津→上海→福岡という旅行経路で、初年度はあ

るからすべての都市を全員が訪問・調査を行い、社会状況や都市の現状について共通の認識をもった。また、2～3年度は、個別都市の現地調査を実施し、特に天津市を中心に重点調査を行った。

#### (2) 個別テーマ調査

研究総括者（趙）は、研究の進行、予算の管理など全てを総括し、現地調査では日程の管理、海外研究協力者との打ち合わせなどを担当し、現地では以下のように主要な課題を設定し、研究協力者と連絡を取りながら、助言等の協力を得た。

- (a) 日本租界設立の歴史的背景のレビューとその都市変遷の体系化
- (b) 3次元コンピュータグラフィックスによる日本租界の再現
- (c) 文字情報・空間情報・画像情報を一体化したデータベースの作成

これまで約6年間にわたり、中国の都市調査・研究を行ってきた。中国では公的なデータや地図情報の整備は不十分であるが、現地の大学関係者や行政担当者の協力を得て、計画の通りに現地調査を行うことが出来たことから、今回の調査も計画通りにスムーズに進めることができた。

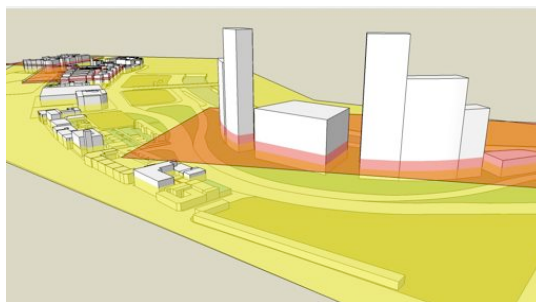
#### 4. 研究成果

(1) 日本租界の基礎資料の整備と日本の都市計画史研究への寄与：日本租界の開港経緯のみならず、当時の敷地条件や計画理念を明らかにしたと共に、日本租界研究における最も基礎的な資料となり、今後我が国の都市計画史や社会史の研究の進展に寄与することができた。

(2) 文化遺産・観光資源としての日本租界の保存と整備の促進：本研究の実施及び成果の公表を契機に、旧日本租界の建築・都市空間の魅力を再評価し、将来的には旧日本租界を都市の文化遺産又は観光資源として保存・整備する動きがあり、更なる日本研究の活性化につながった。

(3) 3次元コンピュータグラフィックスによる日本租界の再現：これまでの調査で得られた都市空間構成のデータをベースに、租界の建物等を実測し、鳥瞰とアイレベルの双方をカバーできる3DCGを作成した。

(4) 都市文化に対する相互理解への貢献：日本租界は日中両国における歴史的な「産物」であり、相互理解を深めながら、日中両国の研究者が共同研究の実施及び努力によって、租界研究のみならず、今後我が国の都市文化に対する相互理解の促進に対して一助となることが期待される。



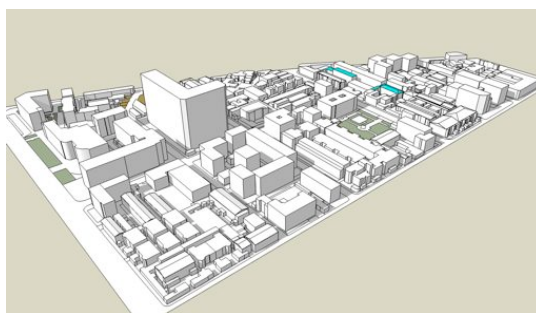
天津日本租界建物高さの分析 1 (3DCG)



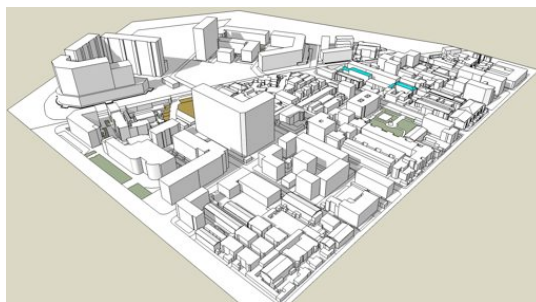
天津日本租界建物高さの分析 2 (3DCG)



天津日本租界鳥瞰 A 地区 (3DCG)



天津日本租界鳥瞰 B 地区 (3DCG)



天津日本租界鳥瞰 C 地区 (3DCG)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- (1) 新田一貴、趙世晨、幾何学的形態測定法を用いた都市形態の変遷に関する研究、都市・建築学研究、九州大学大学院人間環境学研究院紀要、第24号、pp.9-14、2013年7月、査読有
- (2) Xiaoyan MI, Shichen ZHAO, Heping LI and Daqiang WANG Analysis, Method of Connectivity on Pedestrian Space in City Region, Proceedings of 8th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, Asian Urban Research Group, pp.21-32, March 2012, 査読有

〔学会発表〕(計3件)

- (1) 熊沢翔太郎、趙世晨、CAを用いた歩行空間の連続性評価に関する研究、2013年度日本建築学会大会、2013年8月31日、北海道大学
- (2) 小川勇樹、趙世晨、カメラ・キャリブレーションを用いた都市風景画の視点場推定に関する研究、2011年度日本建築学会大会、2011年8月25日、早稲田大学
- (3) 村田潤一、趙世晨、ネットワーク解析を用いた都市形態の変化に関する研究、2011年度日本建築学会大会、2011年8月25日、早稲田大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

趙世晨(Shichen ZHAO)

九州大学・大学院人間環境学院・准教授

研究者番号：80304848